

| 重点目標 | 具体的取組 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 成果と課題および改善策 | 当初示した判定基準 | 担当 | |
|-----------------------------|---|---|--|---|--|--|----------------------------|
| 1 より高い志 を持たせる 進路指導 | (1)校内外からの講師による講演会、ホーム担任等による面談を繰り返すなど、入学後の早い段階から進路についてより高い目標に挑戦する意識づけを行うとともに、保護者への情報提供を充実させる。 | ① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、講演会や体験型の講座、面談等を行う中で、進路目標を明確化できるよう指導する。 | 本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 達成度C 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は71%であった。 1年生で 82.7% 2年生で 83.2% 3年生で 67.4% | 昨年度12月の肯定的評価67.5%より向上したとはいえ、1年生の評価に比べ、2・3年生の評価が低いことが課題である。現2年生は昨年の1年生12月の段階では肯定的な回答が72.6%あったがダウンした。要因としては、2年生の伏見プラス(体験型の進路学習)やインターンシップが8月以降に本格化すること、1年次よりも生徒の進路意識が高まり期待水準が上がっていること等を考えられる。一方、現3年生は昨年の2年生12月段階では肯定的な回答が62%であったことから、やや持ち直したと見える。要因としては1学期に丁寧な個別面談が繰り返されたことが考えられる。今後、特に2・3年生へのきめ細やかな面談指導を行っていく。 | C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。 | 進路指導課 各学年 |
| | | ② ホーム担任等との面談を繰り返すし、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を高め、より高い進路目標を設定できるように支援する。 | 1・2年生の進学希望者のうち、四年制大学を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 | 9月と1月に調査を行う。 | C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等を再検討する。 | 進路指導課 1・2年 | |
| | | ③ 入学試験センター試験を目標とする生徒が増えるよう指導する。 | センター試験において3教科以上受験した3年生の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 1月に調査を行う。 | C、Dの場合、進路説明会や面談の内容およびセンター試験に向けた教科指導のあり方を再検討する。 | 進路指導課 3年 各教科 | |
| | | ④ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。 | 個別学力試験で国公立大学への出願数が A：45人以上 B：40人以上 C：35人以上 D：35人未満 | 1月に調査を行う。 | C、Dの場合、教師による志望校研究や生徒の学力把握のあり方および5教科学習を維持させる教科指導のあり方を再検討する。 | 進路指導課 3年 各教科 | |
| | | ⑤ 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習などを行う態度を育て、学習習慣の確立を図る。 | 1・2年生のうち、平均2時間以上家庭学習している生徒の割合が A：35%以上 B：30%以上 C：25%以上 D：25%未満 | 達成度D 1学期の家庭学習時間調査の結果、平均2時間以上家庭学習している1・2年生の割合は12.4%であった。 1年生で 13.2% 2年生で 11.6% 3年生で 28.9% | 家庭学習時間調査の結果は振るわないが、前期学校評価において、「自分は、授業の予習・復習や宿題、小テストの勉強などにしっかりと取り組んでいる」と回答した生徒の割合は71パーセントと決して低くない。明確に指示された家庭学習課題にはきちんと取り組める生徒が多いので、今後まず家庭学習課題の与え方の改善に向けて、各教科・各学年で話し合う。また部活動との兼ね合いについても各課・学年で再検討する。 | C、Dの場合、普通科科長としての学習指導のあり方を再検討する。 | 教務課 各学年 各教科 |
| | | ⑥ PTA広報誌やメール配信等を活用し、本校における進路学習について、保護者への情報提供を一層充実させる。 | PTA広報誌、学校HP、メール配信等の情報によって、本校の進路学習についてよく理解できると思う保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 達成度B 前期学校評価において肯定的な回答をした保護者の割合は83パーセントである。 1年生保護者で 86.8% 2年生保護者で 81.4% 3年生保護者で 81.2% | 今年度は各課の協力を得て、PTA広報誌に保護者対象進路講演会の概要や英検に関する情報を載せたり、メール配信で学習や進路指導に関する情報をこまめに提供するなど、保護者との情報共有に一層力を入れており、そのことに対して一定の評価は得られたと考えられる。現在保護者のメール配信の登録率は約70%(世帯単位)である。 メール配信登録世帯は 1年生保護者で 約78% 2年生保護者で 約65% 3年生保護者で 約65% ※3年生保護者は5月から8月にかけて5%増 | C、Dの場合、情報提供の媒体および提供している情報の内容等について再検討する。 | 副校長 総務課 情報課 進路指導課 |
| | (2) 学力スタンダード、シラバスとの整合性をとりながら、授業・補習・朝学習を体系化する。また45分授業に見合った教授内容の精選・方法の再検討を行い、生徒の更なる学力向上を目指す。 | ① 学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして、各教科が協力を深め組織的に指導力を向上させる。 | 学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして各教科の指導力が向上したと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 達成度D 前期学校評価において肯定的な回答をした教員の割合は36.3%であった。 | 学力スタンダードの実践・評価は今年度始まったばかりであり、教員の戸惑いも見受けられる。今回の結果を受け、各教科とさらに研究・協力を進め、有効性を高めていく。 | C、Dの場合、各教科のあり方を再検討する。 | 教務課 各教科 |
| | | ② 授業をベースとして、補習・朝学習等の体系化を進める。 | 学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 達成度C 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は64.7%であった。 1年生で 63.9% 2年生で 60.6% 3年生で 69.0% | 前期学校評価における生徒の回答を分析すると、「自分は、授業をとおして学習意欲が向上し学力が定着した」という回答と「自分は、自分なりに高い目標を掲げ、その実現に向けて努力している」という回答には相関関係があり、特に3年生特進クラスにおいて顕著な相関が見られる。学力向上は進路意識の高揚に直結すると言える。今年度は夏季補習の枠組みを大幅に改めた。教師は授業評価をもとに授業改善に努め、1・2年生のうちからしっかりと授業に取り組みせるとともに、学力向上が実感できるような補習・朝学習のあり方について各教科で再検討を続けていく。 | C、Dの場合、授業改善の状況、生徒の学習時間や成績等と照らし合わせ、指導法を再検討する。 | 教務課 各学年 各教科 |
| | | ③ 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻常習者への面談を強化する等、各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。 | 遅刻延べ人数が前年度と比較して A：20%以上減少した B：10%以上減少した C：10%未満の減少であった D：増加した | 達成度C 1学期の遅刻延べ人数は245人、前年度同時期の遅刻延べ人数266人に対し9.2%(8%減)となった。 | 各学年とも6月の遅刻が最も多くや残念な結果となった。とはいえ前期学校評価において、「自分は、学校に遅刻しないよう心がけている」と回答した生徒の割合は96.6%、「自分は、マナーを守り、頭髪・服装など高校生らしくきちんと整えている」と回答した生徒の割合は95.5%と、いずれも極めて高い。時間を守る・マナーや規則を守るといった規範意識はしっかりと定着していると言える。遅刻常習生徒への個別指導を今後も丁寧に継続していく。 | C、Dの場合、特に常習者の遅刻原因を究明し、生徒・保護者ともに対策を検討する。 | 生徒指導課 各学年 |
| | | ④ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高める。 | ゴミの分別、配付プリントの持ち帰り、教室やトイレの消灯等、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 達成度A 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は71.7%であった。 1年生で 72.2% 2年生で 69.7% 3年生で 73.0% | 概ね肯定的な回答が多いのは、小・中学校以来生活習慣として定着しているからであろう。一方、保護者の回答に目を向けると、「わが子は、環境保全のため、紙や電気の無駄をなくそう」と、ゴミの分別や消灯などに積極的に取り組んでいる」と回答した保護者の割合は53.7%に過ぎない。特に家庭ではまだ改善すべき点があるのかも知れないので、今後さらに生徒の意識向上を図っていく。 | C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。 | 保健相談課 各学年 |
| | | ⑤ ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。 | ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が全生徒数の A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満 | 達成度D 1学期中にボランティア活動に参加した生徒の延べ人数は、93人で、10.7%であった。 | ボランティア活動の機会は、例年夏休み以降に多くなる。今年度は4月の「伏見川一斉清掃」が大雨のため中止になった影響もあり、1学期の参加者数は振るわないが、今後「サマーボランティア」「わくわく伏見体験」「金沢マラソン」等で参加者数も大きく増える見込みである。 | C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。 | 特活指導課 各学年 各部活動 |
| | | 学校評議員・学校関係者評価委員の評価 | ・達成度判断基準の変更により、各項目の達成度がAからDまでと、学校の実態がより良く反映される結果となり良かった。遅刻に関する達成度判断基準についてはさらに妥当性を検討してほしい。 ・生徒と保護者や教師との意識のギャップ、生徒の家庭学習の質等が検証できる調査方法をさらに工夫してほしい。 ・部活動単位で行うボランティア活動だけでなく、個人で行うボランティア活動についても把握し、適切な評価、地域社会と高校生との連携推進に活用してほしい。 ・より早い段階からキャリア教育に力を入れることで、生徒の学習意欲喚起や学力向上につなげてほしい。 ・全体的に教職員の頑張りが実感できた。今後も生徒や保護者との丁寧な面談を重ね、早期に目標を持たせてほしい。 | | | | |
| 上記評価に対する今後の取り組み | ・学校評価アンケートの設問や達成度判断基準については今後も検討を続けていく。また他の調査等の結果と合わせて分析していく。 ・遅刻については、保護者と連携し、学校全体として減少させていきたい。そのための評価指標について検討を続けていく。 ・個人で行っているボランティア活動については担当が把握できるように留意する。機械的に数をカウントするのではなく、教師側の丁寧な受け止めを大切にしたい。 ・キャリア教育は、今後もできるだけ早期から、生徒の発達段階に合わせて行っていく。1年次にはまず学習習慣作りを重点を置く。また金曜第7限を個人面談の時間として確保し、より一層丁寧な面談指導に努める。 | | | | | | |